

各関係機関長 殿

香川県農業試験場病害虫防除所長  
(公印省略)

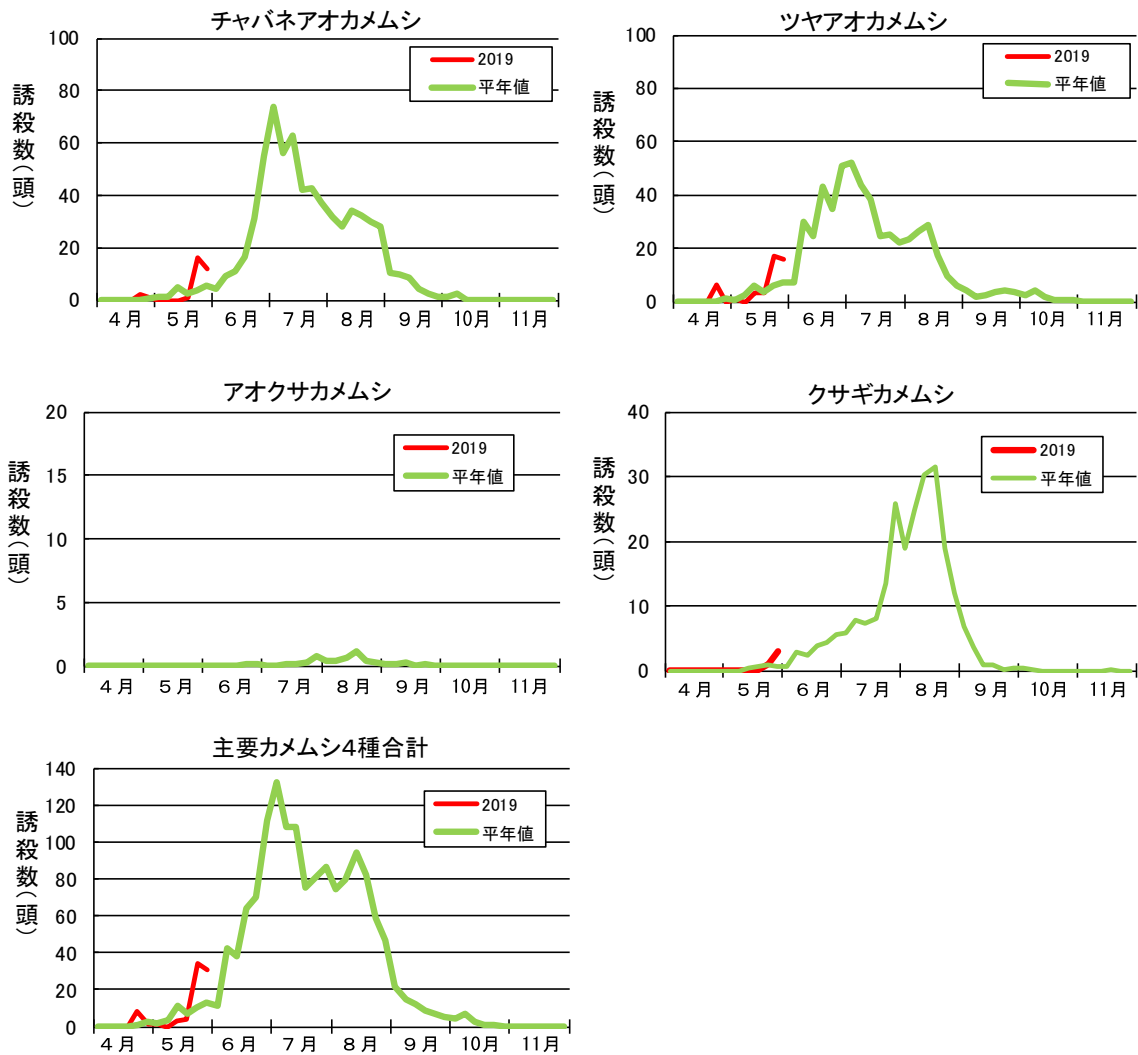
令和元年度病害虫発生調査速報第4号について

このことについて、次のとおり発表したもので送付します。

令和元年度 病害虫発生調査速報 第4号

1. 病害虫名： 果樹のカメムシ類（特にツヤアオカメムシ）
2. 対象作物： モモ、ナシ、キウイフルーツ、カキ、ブドウ等
3. 調査結果の概要
  - 1) 県予察圃場の予察灯での5月第5半旬から第6半旬までのカメムシ類（主要4種）の誘殺数は平年の2.8倍（本年：65頭、平年：22.9頭）と多かった。特にツヤアオカメムシの誘殺数は平年の3.0倍（本年：33頭、前年：7頭、平年：13.0頭）であった。また、チャバネアオカメムシの誘殺数は平年の3.0倍（本年：28頭、前年：9頭、平年：9.3頭）であった。
  - 2) このことから、カメムシ類の発生が平年より早く、モモ、ナシ、キウイフルーツ、カキ、ブドウ等での被害が懸念されるため、適期防除を遅れないように行う必要がある。
4. 防除対策
  - 1) 圃場内をよく観察し、被害果実やカメムシ類の発生が見られる場合は、早急に防除を実施する。特にスギ、ヒノキ等が周辺に多い圃場や、過去に被害が認められた圃場では注意する。
  - 2) 多発してからの防除では防除効果が劣るので、発生初期の防除を徹底する。
  - 3) 成虫は夕方に飛来し夜間加害するので、薬剤散布は夕方に広域かつ一斉に行うと効果的である。
  - 4) 黄色蛍光灯は、チャバネアオカメムシには忌避効果があるが、ほかのカメムシには効果がないので注意する。
  - 5) 防除薬剤は、香川県主要農作物病害虫・雑草防除指針、果樹病害虫防除暦を参考にする。
  - 6) 薬剤の特徴は、有機リン剤は即効性だが残効が短い。合成ピレスロイド剤は残効が長く殺虫効果だけでなく吸汁阻害効果があるが、天敵に影響を及ぼすため連用するとカイガラムシやハダニ類が急激に増加することがあるので注意する。ネオニコチノイド剤は殺虫効果は有機リン剤や合成ピレスロイド剤より劣るが吸汁阻害効果があり残効も長い。

カメムシ類半旬別誘殺数(県予察圃場予察灯、坂出市・府中果樹研究所)



第1図 県予察圃場の予察灯での果樹カメムシ類の誘殺状況

**農薬はラベルをよく読んで使用しましょう**



6月～8月は、農薬危害防止運動月間です。  
 農薬の使用が増える時期ですので、今一度、農薬を適正に  
 使用できているか、チェックしましょう。

病害虫防除所インターネットホームページ

URL: <http://www.jppn.ne.jp/kagawa/>